

提案します

(仮)向島大学構想

Association of Mukojima Studies

向島学会

ニュースレター

2005年
4月27日号

<http://www.mukojima.org/>

発行 向島学会
代表 高木新太郎
連絡 墨田区向島5-19-12-1F
7A・2内
03-3624-8673

目次
2004年度第7回交流のサロン
(資料)(仮)向島大学構想試案

主なスケジュール(予定)

定期総会

日時: 2005年5月14日(土)午後2時~
場所: すみだ生涯学習センター(ユートリヤ)

2004年度最後の交流のサロンが開かれました。2004年度の「まちづくり会所」報告とともに、「向島大学」の構想と、向島学会のNPO化について、大きな議題です。2005年度以降に生まれるであろういろいろな足元で支える基盤を、この際しっかりとつておこうというための試行です。

サロンの始まる前に、キラキラ橋商店街にある空き店舗を視察しました。商店街の拠点であり、まちづくりの拠点にもなるプロジェクトに育つかどうか...。

商店街+地元有志で賃貸予定(京島地区まちづくり協議会会長でキラキラ橋商店街に店を持つ藤井さん)

これから夏に向けて、です。



外観(正面) 2階居室

きらきら商店街の空き店舗



外観(横) 1階空き店舗

RICE+に急展開

裏の京島3人娘邸を含めて、RICE+並びの長屋2軒の家屋が取り壊されることになりました。

昨年暮れより、大家さんが建築資格者に相談して、地震や地殻変動についての調査をし、改修または撤去を検討した結果、取り壊しにいたったということです。隣の空き家に不審者が出入りした形跡もあることから防犯、火災などの心配もあるとのこと。

RICE+としては、非常に残念なのですが、この旨を受け入れます。とりあえず、雑誌などにすでに掲載されているイベント(昭和40年会)が5月末にあり、それを最後のイベントと考えています。

東京理科大学生や北条さんに、ここまで改装していただいて、こんな早い時期になくなるのは非常に無念ですが、いまの日本の文化行政の範囲では、流れに淘汰されるといわざるをえません。向島学会の「まちづくり会所」として位置づけていただいて、「ブログ講座」「京島まちづくりワークショップ」などを開催したばかりなのに、本当に残念です。

それまでの期間を、ぜひふんだんに活用していただければと存じます。

RICE+ディレクター 嘉藤笑子氏より

信基京島・向島でアートの発信
ストリート・イン・まちづくりプロジェクト
として活躍してきているRICE+会所
E+の戸が閉じてきたことを
にりでもした。新しい会所
をづくりの目的のためです。

とびつくす

仲間になりませんか!

向島学会では、会の目的に賛同し、活動に主体的に参加するとともに、活動の成果を会に提供する個人を対象に会員を募っています。会員2名の推薦が必要ですが、交流サロンなどに参加していただき、その後、会員に申し込まれることをお勧めします。

入会金 3,000円
(学生会員 1,000円)
年会費 3,000円
(学生会員 1,000円)
申し込みは「交流サロン」やHP等でも受け付けます。
郵便振り込み
00130-7-723191 向島学会

PS.04年末に振込先が上記に変わりました。ご注意ください。

向島学会 2004年度 第7回交流のサロン

テーマ：「向島大学」の構想案
開催

今回は、向島学会の発足以来、懸案事項であった「向島大学」の構想案について、二つの試案を発表し、それをもとにして意見交換します。主な内容は、・建学の精神（開校の主旨）・組織構成と運営システム・講義内容案と学位案・今後の課題です。

併せて、活動の拠点となる「まちづくり会所」の現状と方向性、向島学会のNPO化についても検討状況を報告し、意見交換します。

- 日時： 2005年4月2日(土) 午後2時～5時
会場： 京島キラキラ会館 京島3丁目5番、京島キラキラ橋銀座商店街、交番近く)
話題： 1) 「向島大学」の構想案について(高木新太郎・曾我高明ほか)
2) 「まちづくり会所」について(真野洋介・嘉藤笑子・渡辺慎二ほか)
3) 向島学会のNPO化について(山本俊哉)
4) 諸報告 ・ 鳩の街商店街の取組みについて(古橋良文・大崎元ほか)
・ 京島まちづくりについて(藤井正昭・長谷川栄子・藤野雅統)
・ 日本都市計画家協会関連プロジェクトについて(山本俊哉)
・ 「ふたつの向島」の演劇プロジェクトについて(トリのマーク)
・ その他

サロン開始前に、キラキラ橋商店街にある空き店舗を視察しました。

たまたま墨田に来ていた国連人口問題担当のサウジアラビア出身オサマさんも参加



「向島大学」の構想は今年度初めから話題に上つてきたもので、当初は講座とガイドツアーを「向島イヤー」のプログラムとして位置づけていました。新たな「向島大学」構想は、向島学会のNPO化とも絡めて、恒久的な、地域主体の「市民・住民大学」をイメージしています。まずは、地域発「大学」のイメージを手にしようということで、地域の人的資源や今までの活動を思い起こしつつ、既存大学についての検討を交えて、にぎやかに意見が飛び合いました。地域をベースに、誰もが講師で誰もが聴講生であるようなイメージが徐々に形を成してくるにつれて、場所の確保や経営・運営の課題 組織構成としてのあり方といった、具体的な、そして一筋縄ではいかない課題も出てきます。RICE+閉店とも合わせて、構想に対するリアリティをどうやって確立していくのが、この先の大きな課題です。

向島学会のNPO化もずっと懸案になっていた事項です。「向島イヤー2004」が無事完了し、「まちづくり会所」でいろいろなプロジェクトの立ち上がりも期待できるところまでできました。そうしたことから、これまでのイベント中心の活動を超えて、より継続性のある、さらには事業としての実体性を確保できる体制をつくらうということと、今までの実績から見れば、NPOとしての公共性、地域性は既存のどのNPOにも負けないだけのものがあり、活動の組織力も十二分です。しかし、課題はやはり経営・運営の確立です。

提案内容を次ページで掲載します。「向島大学」の構想は、高木新太郎さんと曾我高明さんの試案です。これから2005年度を通して検討していきまます。5月14日の総会で検討課題として報告させていただきます。ご意見、ご要望など、ぜひお寄せください。



「ふたつの向島」(トリのマーク)から「さかなおとこ」さんも参加



「まちづくり会所」を通じて、いくつかの具体的なプロジェクトが動き出しました。

《京島会所》
京島まちづくりワークショップ
第1回「平屋や長屋住宅の建て替えイメージについて」
第2回「これらの京島の住まいのモデルプランの提案」
ここから、キラキラ橋商店街空き店舗活用プロジェクトへとつながっていきます。

《東向島会所》
地域生活支援ステーション・墨田の元・桜井旅館改修ケーススタディ
との会による福祉事業との協働プロジェクトです。

E邸
鳩のまちから路地を入つてすぐの小さな木造2階建ての住宅改修です。地域定住を目指すまちづくりです。

詳しい本文は、学会ホームページ上で配布します。各プロジェクトとも実現に向けてこれからが本番、見守ってください。



向島学会では2005年3月まで京島地区と東向島地区のそれぞれで計2つの「まちづくり会所」を拠点にしてきました。京島会所はRICE+、東向島会所は鳩のまち商店街の元居酒屋「いどばた」です。

1. 大学名

(1) 向島大学(仮)

これで構わないと思うが(要は内容なので)、大学数が多いので学校法人と誤解するだろうか？

(2) その他の名称

内容、建学の精神等を反映したものを加えるが、「向島」は残す。

例：向島進化大、向島英気大、向島育成大、向島自遊大、向島都市大

2. 建学の精神

(1) 私立大の具体例より

私立大には、必ず建学の精神、基本理念等が存在する。これによって、その大学の特徴が出てくる(通常はあまり気にしていない?)。

具体例は表1に示すが、大きく2つのタイプがある。かなり一般的なものと限定的なものである。一般的な例は四日市大、具体的な例は広島修道大である。どちらのタイプを掲げるかが、一つのポイントである。

本格的な大学ではないので、具体的なものにアクセントを置いた中間型が妥当と思われる。たとえば、豊橋創造大学(1996年開学)の建学理念「創造力を培い、起業家マインドを育成する」とまで書けるかどうか。

(2) 向島大学(仮)の建学の精神

向島地域に限らず、一般に温故知新を求める人材の育成

地域の発展に貢献する人材、法人等の育成

向島に関心のある人達と向島との相互協力・促進

~ は具体的な内容であるから、建学の精神としては次のようにしたい。

「(向島が中心となるが、地域全般に関して)地域の発展と地域に関心のある人との向上を実現する」

3. 組織の考え方と構成

(1) 全体の概観

向島学会を学校法人とみなし、向島学会が向島大学(仮)を運営する。

向島大学(仮)のもとに、学部、学科を設ける。

(2) 学部の設置の考え方

向島学会の現状の考慮=街づくりとアートの学部が考えられる。

向島での基本課題に対する学部

(ア)後継者育成、中小企業、伝統工芸等、産業を含めた社会生活(自営業が多い)の学部

(イ)歴史、文化等、伝統を生かした学部

(ウ)もし可能なら、地盤、河川等、土地をめぐる学部

(3) 学部、学科、コース等

街づくり学部

(ア)構造物学科【地盤・自然コース、住居・建物コース、景観コース】

(イ)地域情報学科【地価コース、人口コース、交通コース】

(ウ)地域デザイン学科【地域組織コース、都市環境コース、地域公共財コース、総合デザインコース】

芸道文化学部

(ア)芸道学科【伝統工芸コース、美術コース、音楽コース、文学コース(美術~文学には現代表現も含む)】

(イ)地域歴史文化学科【歴史コース、総合文化コース】

社会生活学部

(ア)都市学科【経済コース、法・政治コース】

(イ)産業経済学科【産業コース、後継者人材コース】

(ウ)地域長所学科【伝統コース、現在・将来コース】

(エ)総合学科

4. 教科方向等

(1) 公開講座とその大枠

前項の大学は大掛かりなため、すぐにはできない。したがって公開講座となる。

そのとき、3-(3)を目安として、各講座を分類する方式とする。

講座は一つの案として、(A)1ヶ月(4回)(B)3ヶ月(12回)(C)その他(例:1回)と3つのタイプをとる。

(A)と(B)が基本である。(C)は講演会、ガイドツアータイプか。

受講料はとる。すみだ学習ガーデン方式と清見瀧方式の併用はどうか。

(2) 単位と学位

原則的に単位、学位とも与える。

単位は、(A)が1単位、(B)が3単位である。(C)は今後考える。

学位は検討する必要があるが、2年間で15単位で最初の学位を授与する。

学位は2年単位でなく、通算も必要である。事務局の課題もあり、今後検討する。

学位取得のメリットをどうするか。一つの案はある一定水準の学位を持っている者に講師の資格を与えることである。

5. 運営方法の問題等

実施に伴う課題は多いので、できるところから実施することを原則とする。

ただし、原則論は立てておくことが必要である。そうでないと、その場限りとなる。

具体的運営に当たっては、場所(本部、会場)事務局組織が要となる。この確保が可能かどうか依存する。

開校主旨

向島においてアートを活かしたまちづくりを積極的に推進してきた向島学会では、これまで築き上げてきたまちづくりとアートのユニークな協働の実績と多彩なネットワークを背景に、次世代のまちづくりの担い手を育成するため「向島大学」を開校します。第三世代型と言われる現在のまちづくりは、これまで別個に地域で活動してきた多様なまちづくりの主体や NPO が、ゆるやかなネットワークをつくり連携して活動する、新たな総合の時代を迎えつつあります。

向島大学では、まちづくりの「総合大学」として、地域密着とグローバルという複合的な視点に立ちながら、新しい時代のまちづくりにふさわしい総合的な知識や具体的なスキルを学ぶための多彩な講座を開催します。また、それぞれの講座では、従来の教える / 教えられるという枠組みを超え、講師と生徒がともに知識や体験を共有できる、生き生きとした学びの場の創造を目指します。

授業は講師とのフリーディスカッションを中心に行われ、まちにおけるワークショップや参加者と地域の交流を促すカフェなど、コミュニティアートの手法を取り入れたイベントも随時開催、まちに開かれた、風通しの良い学びの環境を作ります。

講義システム

毎回 2 時間 金曜あるいは土曜の夜に開催

隔週 6 回 3 ヶ月コース

(実践に主眼を置く講座の場合は実際のプロジェクトを立ち上げる時間が必要。)

受講料：1 講座 20000 円

定員：1 講座 15 ~ 20 名

教室：いどばた、一寺言問集会所、キラキラ会館、フルハウス、現代美術製作所など

講座修了者には向島コミュニティカレッジ修了証を授与。

運営

事務局で講座やゲスト講師のスケジュール調整、広報、会計などを担当

(課題) 事務局経費、ゲスト講師謝礼、会場費等が発生

(課題) 事務局の場所をどうするか

講座内容案

まちづくり基礎講座

まちづくりとは何か?ここでは日本だけでなく各国のまちづくりの実例も紹介しながら、様々なまちづくりの歴史、その変遷、近年の傾向について基礎的な知識を学ぶ。また、まちづくりに取り組む行政、企業、市民の関係や、まちづくりを支える活動体としての NPO の役割などについて考える。(山本、真野 他)

活性化するまちアートプロジェクト

まちに拠点を置き、まちとの関わりをテーマに活動する様々な NPO や組織がある。彼らのミッションはどのようなものか?

また、彼らのアートプロジェクトはどのような手法でまちに働きかけているのか?プロジェクトの当事者から話を聞く。

(向島学会、仙台七夕プロジェクト、コミュニティアート船橋、前島アートセンター、S-AIR、AAF 他)

まちづくりとワークショップ

まちづくりの現場では、地域住民を対象にしたワークショップがしばしば行われる。この講座では狭い意味でのまちづくりに限定することなく、アートプロジェクトも含めて、まちとの関わりをテーマにした様々なワークショップの手法や考え方について、ゲストから話を聞く。また実際にグリーンマップのワークショップを向島で体験する。(真野、藤浩志、中村政人、水内貴英、KOSUGE1-16 他)

コミュニケーションツールとしてのカフェ講座

まちづくりにおいて「カフェ」の役割が注目されている。押し付けがましくない、ゆるやかで自然な人と人の交流を促す

「カフェ」について、コミュニケーションツールという観点から考える。また実際にカフェのメニューを考案し、まちのなかでカフェイベントを開催する。(TARO、ニギリズム他)

イベントプロデュース実践編

まちにおけるイベントやプロジェクトは、美術館やギャラリーなど「ハコ」の中で行うイベントとは異なるアプローチが必要である。この講座では時間をかけて実際に向島のまちの中でひとつのプロジェクトを立ち上げる。そのプロセスにおいてマネジメントの方法やアーティスト、市民との関わり方などを実践的に学んでゆく。(曾我、嘉藤 他)

タウンツアーガイド養成講座

名所旧跡以外にも観光地はある。まちなか観光は、身近なまちの資産を再発見し、まちづくりへと積極的に活用してゆく試みである。この講座では向島をケーススタディーに、まちなか観光資源の発掘のためのリサーチを行う。まちの人に話を聞き、最終的に独自の観光ツアーコースを作成、実際にツアーガイドを体験する。(真野、佐原、古橋、藤井、高原 他)

向島雑学大学

まちにはいろいろな人材がそろっている。向島学会に集う人々が、毎回様々なテーマで雑学をレクチャー。ひもの作り方、川柳講座、銭湯談義、路地ガーデニング、長屋生活入門、地ビール講座など、雑学を通じてまちの生活の豊かさにたっぷり浸る。なお、レクチャー終了後は毎回必修の二次会を開催。(小川、阿部、山崎、渡辺、長谷川その他)